



は川越はかりなり」と謡われたこの町には、今も江戸の風情を残す古い町並みが残されている。吾多院や中院、そして江戸時代に17万石を誇った川越城の本丸御殿など、数多くの歴史的建造物が点在し、観光都市として非常に盛んなところである。

そんな伝統ある城下町に現れた2台のクライスラー300。近代のかつ特徴的なフェイスと往年のアメリカ車らしい佇まいを感じさせるグローバルックとアイボリートライオートバールの2台が放つロマントラストが、「不思議」との町に溶け込んでしまるのがわかる。伝統に敬意を表しつつ進化を続ける川越に、この300とは見事にシンクロロジしていた。

この300に進化をもたらしたのが、ボディ下部に与えられたボディキットであることは明確だ。押し出し感の強かつた先代とは異なり、現行モデルのフロントマスクには力強さが希薄であることは否めない。つまり、それらを再び手に入れつつ洗練されたスタイルへと昇華させたのが、この「BS-MA」のボディキットといふわけだ。

BS-MAのプロデュースを担当したのは、古くから川越にヘッドクライマーを構え、この地から全国へ情報を送っているバス・ファクトリー。如

で、もちろんそのクオリティの高さも折り紙つき。全国のファンから指名されるのは、完成されたスタイルだけじゃなく、リリースされる製品の信頼度にも理由がある。

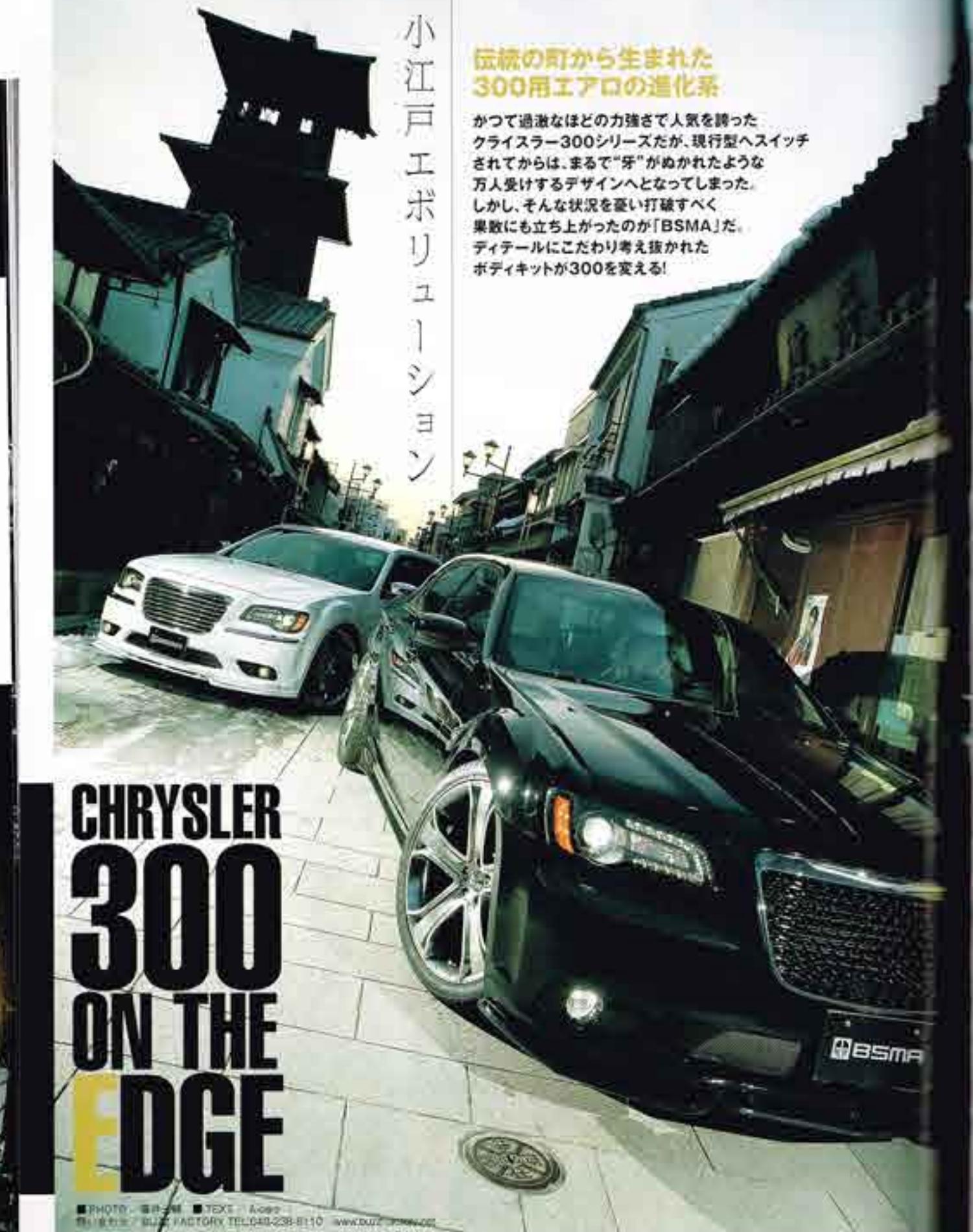
もちろん考え抜かれたデザインも見逃せない。実は「ブラックはアメリカからのダイレクトインボート、アイボリーはクライスラーのディーラー車で、ともにソルエンジンを搭載するモデル」。一存知のとおりディーラー車にSRT-8の設定はないが、SRT-8であってもフェイスは上級モードと同じデザインが与えられている。しかし本国仕様では明確な差別化（オグラングの有無など）や、そのサイズまで異なっているのだ。

そこに着目したB.S.M.AはSRT-8をモチーフとしたオリジナルのフルバンパーを開発。これを本国仕様のV-6モードルヘインストールし、イメージを劇的に変化させるという手法を提案。いっぽうのアイボリーは迫力ある純正フェイスはそのままに、ディテールにこだわったリップのみで対応。しかし、その効果も明らかでノーマルとは異なるランディカルな印象をこの300%に与えている。

伝統と進化。このふたつを見事に融合させた2台のB.S.M.A 300が、「カスタム」でしか達成できないアメノカツの可能性を拓いてくれた。

**CHRYSLER
300
ON THE
EDGE**

カスタムでしか達成できないアメリカ車の可能性



小江戸エボリューション

伝統の町から生まれた
300用エアロの進化系

かつて過激なほどの力強さで人気を誇った
クライスラー300シリーズだが、現行型へスイッチ
されてからは、まるで“牙”がぬかれたような
万人受けするデザインへとなってしまった。
しかし、そんな状況を憂い打破すべく
果敢にも立ち上ったのが「BSMA」だ。
ディテールにこだわり考え抜かれた
ボディキットが300を変える!

CHRYSLER 300 ON THE EDGE

■PHOTO: 道井一輔 ■TEXT: Aoiro
THE CLOTHING FACTORY TEL:040-208-8110 www.doux.com